

荒蝦夷が 腕で醸せし この酒は

鬼ころしとも 言べかりける

宗切（飯田豊之助）

（荒々しいアイヌの人々がみずから醸して作った酒は

「鬼ころし」と名付けるのがふさわしいような、味わいの酒である）

など、戯れに、そばの柱に書いて寝ましたが、1つ困りごとがありました。実は、昨日から私たち一行の全員が、下痢をしていて、たびたび大便に通わなければならなかったのですが、アイヌの便所といえば、戸外に丸太を2本並べただけのもので、屋根も囲いも何もないのです。

その夜は暗い上に雨が降っていたので、便所の場所がどこかはつきりと分からないまま着物の尻をまくると、雨で体がビショビショに濡れた何匹もの犬が、私の便を食べようと尻の下に首を伸ばし、犬たちが先を争って噛み合いの喧嘩を始めるので、濡れた犬の冷たい毛が尻に触れるし、私の

尻にも股にも服にも泥をかけられるし、それといったら不潔で汚く、これが今回の旅の中で一番どうにもならないことでした。

3月14日

北西の風が沸き起こる雲を払い去って、晴天になりました。出発する際に、シルンケとエヲロサンを道案内につけてくれました。2キロほど行くと、小川のサオルコツ、向こう岸にヲカトマフという小川があり、そこを過ぎたところに人家が3軒ありました。エチャナレクル家5人、ノタヤン家7人、テムコロール家2人。それを過ぎると、ニトマフからおよそ8キロで小川的美馬牛に到着しました。ここには2軒の人家があり、そのうちのひとつ長老シリコンナの家泊まりました。

シリコンナは元、石狩チクベツの生まれで、幼いころから今の場所に住み、今では忠義と勇気を兼ね備えた人物として、召使10人余りをかかえ、ここから然別一帯までの一族の長を務めています。